

第4章 現状と課題

4-1 現状

哲学堂公園の現状を「保存」、「活用」、「整備」、「体制・運営の整備」に分けて以下に整理する。哲学堂公園の現状及び施設配置について図4-1に示す。

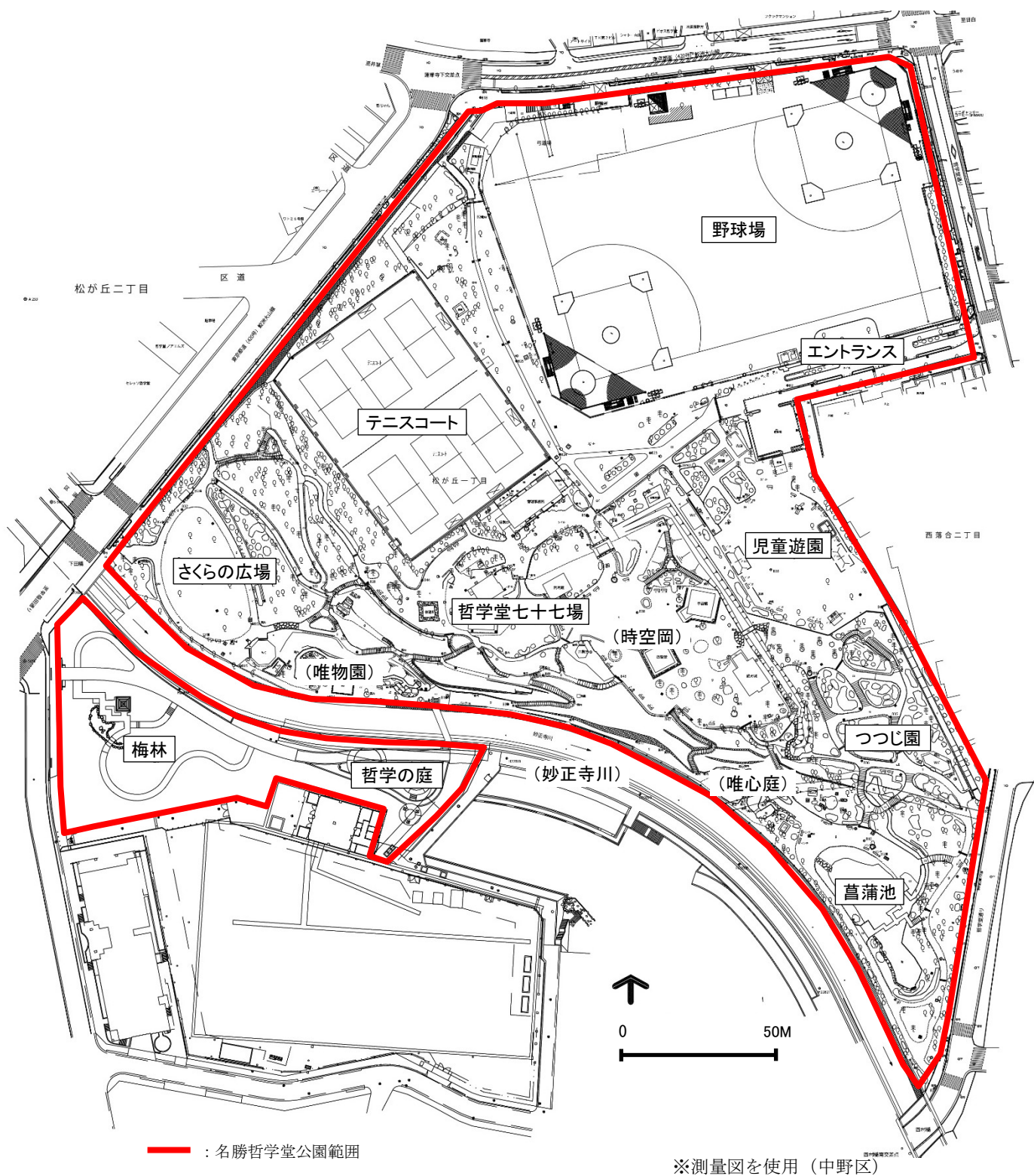


図4-1：哲学堂公園の現況平面図

(1) 保存に関する現状

哲学堂公園の保存に関する現状について、「七十七場」、「広場等」、「植生」、「景観」に分けて、以下に整理する。

1) 七十七場の現状

七十七場の保存状態について、破損や劣化の度合いを場所ごとに整理したものを表 4-1 に示す。また、消失したものについても以下の表に含める。

表 4-1 : 七十七場の保存状況

		台地部	低地部	斜面地部
現存するもの	激しい破損・劣化	常識門、鬼神窟、接神室、 <u>霊明閣</u> 、 <u>時空岡</u> 、 <u>六賢台</u> 、 <u>理外門</u>	客観廬、観象梁、神秘洞、狸燈、造化澗、二元衢、学界津、独断峡、唯心庭、心字池、心理崖、理性島、鬼燈、 <u>主観亭</u> 、倫理淵	筆塚、懷疑巷、経験坂、 <u>感覚巒</u> 、 <u>三祖苑</u> 、 <u>三字壇</u> 、 <u>認識路</u>
	軽い破損・劣化	哲学関、真理界、一元牆、 <u>哲理門</u> 、 <u>髑髏庵</u> 、 <u>復活廊</u> 、 <u>四聖堂</u> 、 <u>唱念塔</u> 、 <u>絶対城</u> 、 <u>聖哲碑</u> 、 <u>観念脚</u> 、 <u>観察境</u> 、 <u>記念碑</u> 、 <u>相对溪</u> 、 <u>理想橋</u> 、 <u>幽霊梅</u> 、 <u>宇宙館</u> 、 <u>皇国殿</u> 、 <u>三学亭</u> 、 <u>硯塚</u> 、 <u>無尽蔵</u> 、 <u>向上楼</u> 、 <u>万象庫</u>	唯物園、物字壇、進化溝、 <u>理化潭</u> 、 <u>博物隄</u> 、 <u>数理江</u> 、 <u>後天沼</u> 、 <u>原子橋</u> 、 <u>自然井</u> 、 <u>概念橋</u> 、 <u>先天泉</u>	<u>三祖碑</u> 、 <u>直覚径</u> 、 <u>論理域</u> 、 <u>演繹観</u>
消失したもの		<u>鑽仰軒</u> 、 <u>天狗松</u> 、 <u>百科叢</u> 、 <u>意識駅</u> 、 <u>帰納場</u>	<u>望遠橋</u> 、 <u>星界洲</u> 、 <u>半月台</u>	<u>万有林</u> 、 <u>哲史蹊</u>

※. 下線は、建築物を示す。

七十七場はその構造から、建造物、石造物、地象、植物、空間の5つに整理できる。
七十七場の保存及び管理状態について以下に整理する。

① 建造物

建造物は、七十七場のうち 32 箇所と最も多い。建造物には、「四聖堂」や「哲理門」などの建築物と、「観象梁」などの橋梁、「三字壇」などの腰掛、「一元牆」の垣根に分けられる。

建築物は同一の建物内でも場所や用途で分けて名称をつけていることから、実状の現存する建築物は 13 棟である。そのうち、「六賢台」、「髑髏庵」、「復活廊」、「鬼神窟」、「主観亭」、「客観廬」などの一部に破損・劣化が見られる。

①-1. 鑽仰軒さんぎょうけん（3：門戸を監守する建物）

現在は消失し、植栽地となっている。建物の詳細は不明である。

石標はあるが、目立ちにくい場所にあり、解説もない。



写真 4-1：鑽仰軒の跡地（現在は消失）
(2022. 11. 14 撮影)

①-2. 哲理門てつりもん（4：哲学堂の正門）

昭和 60～63 年（1985～1988）と平成 30～31 年（2018～2019）に修復された。平成 31 年（2019）の工事では天狗と幽霊像の複製を作成し、現物は中野区立歴史民俗資料館で保管されている。哲理門では現在両体ともに複製が展示されている。

門の両側の聯には、哲学堂における心構えが書かれているが、文字が劣化し読みにくくなっている。また、石標の刻字も読みにくく、名称の判別が難しくなっている。



写真 4-2：哲理門左側の聯
(2022. 07. 08 撮影)



写真 4-3：哲理門右側の聯
(2022. 07. 08 撮影)

①-3. 一元牆 (5: 境界の垣根)

平成3～4年(1991～1992)に修復されたが、四ツ目垣が劣化している。四ツ目垣は、数年に一度、劣化の状況は見ながら定期的な交換が必要である。

周辺は樹木に覆われササなどが繁茂し、垣根の位置や石標が視認しにくくなっている。



写真 4-4 : 一元牆の近景 (奥にしか見えない)
(2022. 11. 14 撮影)

①-4. 常識門 (6: 来館者の入口の門)

平成3年(1991)に修復された。現在は、門の根際が腐朽により劣化し、門扉の金具及び額の固定が簡易であるため、不安定な状態である。

また、両脇の建仁寺垣が傷み、聯が著しく劣化し文字が読みにくくなっている。



写真 4-5 : 常識門の聯と通用門と建仁寺垣
(2022. 07. 30 撮影)



写真 4-6 : 門の根際
(2022. 07. 30 撮影)

①-5. 髑髏庵 (7: 入園受付の建物)、復活廊 (8: 髑髏庵と鬼神窟つなぐ細長い廊下)

平成3年(1991)に修復された。現在、復活廊の床版に軋む部分があるが、建物全体には大きな破損・劣化はみられない。

建物内の一般公開はされておらず、また、髑髏自体の展示や解説がなされていないため、円了が考えている髑髏庵から復活廊につながる一連の修養を体験することはできない。



写真 4-7 : 復活廊の状況
(2022. 11. 14 撮影)

①-6. 鬼神窟（9：二階作りの客室）、^{きしんくつ}接神室（10：鬼神窟の一階）、^{せっしんしつ}霊明閣（11：鬼神窟の二階）^{れいめいかく}

平成3年（1991）に修復された。平成23年（2011）の東日本大震災の影響により、襖の建具が歪み、入らない又は外れたままの状態である。

現在、戸袋や雨戸の劣化が顕著であり、雨戸が収納しきれず、床板が大きく軋んでいる。また、障子の下部に汚れが目立つ箇所がある。

建物内の一般公開はされていないが、予約により集会などの使用目的で、利用することが可能である。

また、周辺の樹木が建物を覆い、「霊明閣」の扁額が隠れ、常識門から入る入り口側から見えにくくなっている。



写真 4-8：建物の外観
(2022. 07. 08 撮影)



写真 4-9：襖の建具のゆがみ
(2022. 07. 08 撮影)



写真 4-10：雨戸の建具のゆがみ
(2022. 07. 08 撮影)

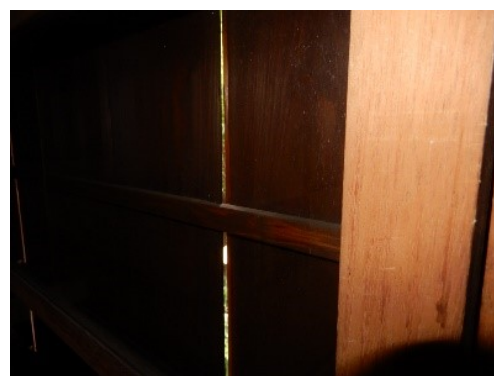


写真 4-11：戸袋の劣化
(2022. 07. 08 撮影)

しせいどう
①-7. 四聖堂（15：四聖が祀られている建物）

昭和 60～63 年（1985～1988）と平成 28～29 年（2016～2017）に修復した。現在は、外階段に劣化がみられ、階段右側に仮設の手すりが設置されている。また、四聖堂の脇にあり哲学堂を解説する石板の刻字が読みにくくなっている。

建物内は常時公開されていないが、期間を限定し見学できるようになっている。建物内部は様々な哲学上の意味による意匠でできている。



写真 4-12：階段と仮設の手すり
(2022. 11. 14 撮影)



写真 4-13：表示が読みにくい石板
(2022. 11. 27 撮影)

ろっけんたい
①-8. 六賢台（17：東洋の六賢人を祀った三層六角形の建物）

昭和 60～63 年（1985～1988）に修復されたが、建物の内外ともに劣化が進行し、顕著な破損・劣化がみられる。また、石標の刻字が読みにくく、名称の判別が難しくなっている。

以下に、建物の破損・劣化の状況を記す。

- ・建物内部：内壁に水平クラック、3階のベンチに反り、シロアリによる蟻害・腐朽
- ・建物外部：基礎大谷石の風化、外壁及び水切鉄板の塗装剥れ、外階段周りの表土流出、木戸の摩耗、屋根瓦の破損

建物内は常時公開されていないが、期間を限定し見学できるようになっている。内部に陳列された記念物や、六賢人の肖像が描かれた扁額、鐘を日常的に見ることができない。

また、六賢台の最上部にある小鐘を鳴らす「六ガン」の体験ができない。



写真 4-14：内壁のクラック
(2022. 07. 08 撮影)



写真 4-15：シロアリの被害
(2022. 07 撮影)



写真 4-16：建物外壁の劣化
(2022. 07 撮影)

① -9. ^{さんじだん}三字壇 (24 : 三祖碑の前にある石造りの腰掛け)

全ての壇において縁石が欠け、壇の台座周りのコンクリートが破損した状態である。
また、石標が現存しておらず、解説もなく、瞑想を行う場であることを伝えられていない。



写真 4-17 : 台座の縁石の破損
(2022. 07. 08 撮影)



写真 4-18 : 台座コンクリートの破損
(2022. 07. 08 撮影)

① -10. ^{きやつかんろ}客観廬 (29 : 物字壇の側にある休息所)

平成4年(1992)に復元された。現在は、周辺の樹木により日陰となり、屋根や隅木にコケが発生している。さらに、軒先板段積みと垂木の一部が腐朽し、柱脚袴金物やベンチ柱が腐食している。また、石標が植栽により視認しにくい。

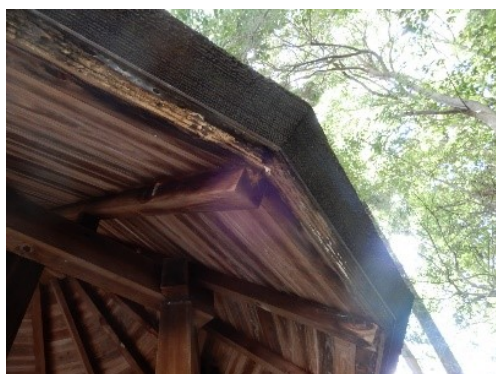


写真 4-19 : 屋根材の腐朽
(2022. 07. 08 撮影)



写真 4-20 : 柱脚の腐食
(2022. 07. 08 撮影)

① -11. ^{かんしょうりょう}観象梁 (34 : 妙正寺川に架かる橋)

当時の構造の詳細は不明である。平成10年(1998)に現在の形状で架け替えられたが、水色で塗装され景観的に違和感がある。架け替え時の歴史的検証が不十分であったと思われる。

また、石標の刻字が読みにくく、名称の判別が難しくなっている。



写真 4-21 : 現在の観象梁
(2022. 07. 08 撮影)

①-12. 望遠橋 (35 : かごをロープで引いて渡す橋)

妙正寺川の氾濫により消失した。古写真に構造の一部が写されているが、全体の詳細は不明である。

跡地に石標はあるが、周辺の植物により視認しにくく、また、刻字が読みにくく名称の判別が難しくなっている。



写真 4-22 : 望遠橋の跡地 (現在は消滅)
(2022. 07. 08 撮影)

①-13. 半月台 (37 : 妙正寺川対岸の建築物)

現在は消失している。古写真に建物の一部が写されているが、全体の詳細は不明である。

妙正寺川を挟んだ対岸にあり、その存在はわかりにくい。また、跡地として石標はあるが、刻字が読みにくく、名称の判別が難しくなっている。



写真 4-23 : 半月台の跡地
(現在は消失) (2022. 07. 08 撮影)

①-14. 原子橋 (41 : 後天沼に架かる橋)

平成3年(1991)に復元された。しかし、復元されたものは、古写真に写る当時の姿とは異なっている。

現在は、縁部や表面が摩耗し、劣化がみられる。

また、石標の刻字が読みにくく、名称の判別が難しくなっている。



写真 4-24 : 縁部の摩耗
(2022. 07. 08 撮影)

①-15. 概念橋 (53 : 心字池に架かる橋)

平成3年(1991)に修復された。しかし、古写真では、修復後の姿は当時とは異なっている。

橋本体の保存状態は良いが、両端部の飛石は目地となる土が流出している。

また、石標の刻字が読みにくく、名称の判別が難しくなっている。



写真 4-25 : 概念橋の飛石
(2022. 11. 14 撮影)

① -16. 主観亭 (55 : 池の湖畔の高所にある休息所)

平成4年(1992)に復元された。しかし、復元されたものは、古写真に写る当時の姿や設置場所とは異なる。

現在は、周辺の樹木により日陰となり、屋根や隅木にコケが生えている。さらに、軒先板段積みと垂木の一部が腐朽し、柱脚袴金物が腐食している。

舗装の劣化も著しく、乱張り石舗装の基礎のコンクリートが地面から露出し、さらに、階段脇の地面が流出している。石テーブルが落書きにより削られている。また、石標の刻字が読みにくく、名称の判別が難しくなっている。



写真 4-26 : 屋根材の腐朽
(2022. 07. 30 撮影)



写真 4-27 : 柱脚の腐食
(2022. 07. 30 撮影)



写真 4-28 : 石テーブルの落書き
(2022. 07. 30 撮影)

①-17. 演繹観 (59 : 認識路の途中の傘形の休息所)

平成4年(1992)に復元された。基礎石にコケが生えているが、本体の保存状態は良い。

当時の詳細は不明である。演繹観では、来観者が休み、自分の考えを深く省みる場として使用されるが、ベンチのような休憩できるものはない。

また、石標の刻字が読みにくく、名称の判別が難しくなっている。



写真 4-29 : 基礎石のコケ
(2022. 07. 030 撮影)

①-18. 帰納場 (60 : 丘にある三脚の休息台)

現在は、上部の休息台は消失し、床と基礎が残された状態である。詳細は不明である。

また、石標の刻字が読みにくく、名称の判別が難しくなっている。



写真 4-30 : 帰納場の床と基礎
(2022. 07. 030 撮影)

①-19. 意識駅 (61 : 二脚の腰掛)

当時は二脚の腰掛が据えられていたが消失している。詳細は不明である。

ひと休みの場として、新たにベンチが設置されているが、材質や形状などに景観的な違和感がある。

以前は意識駅から田園風景を望むことができたが、現在は、眺望先が樹木で覆われる。さらに、周辺の開発によって当時の田園風景の景観から変化している。

また、石標の刻字が読みにくく、名称の判別が難しくなっている。



写真 4-31 : 現在のベンチ
(2022. 07. 030 撮影)

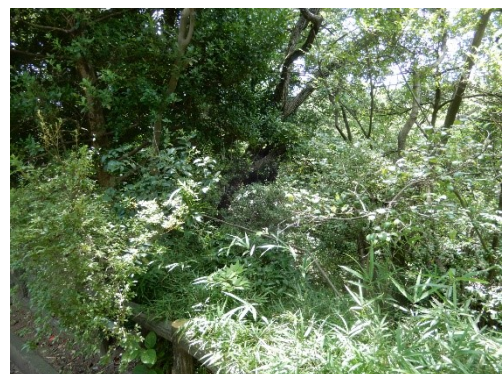


写真 4-32 : 意識駅からの眺望
(2022. 07. 30 撮影)

①-20. 絶対城 (62: 読書室の建物)、観念脚 (64: 絶対城の二階の閲覧室)、観察境 (65: 展望台)

平成 29～30 年 (2017～2018) に修復され、屋根の上の展望台である観察境が復元された。常時公開されていないが、期間を限定して見学できるようになっている。

円了が集めた数万冊の書籍は、東洋大学に移され、現在は哲学に関する書籍や、児童書が並べられている。

建物内は常時公開されていないため、来園者が哲学に関する読書を十分に体験できるようにはなっていないが、特別公開時には観念脚で本を読むことができる。

建物の外側のたたきが劣化し、特に入口前のたたきでは、ひびが入った状態である。また、石標は存在していない。



写真 4-33 : 東石の修復状況
(2022. 07. 30 撮影)



写真 4-34 : 入口のたたき
(2022. 07. 08 撮影)

①-21. 理想橋 (68: 相対溪に架かる石橋)

近年に修理された跡がある。

石標の刻字が読みにくく、名称の判別が難しくなっている。



写真 4-35 : 修復後の状況
(2022. 07. 30 撮影)

① -22. 理外門 (69: 裏門にあたる小門)

現在の形になったのは不明であるが、平成 24 年 (2012) 以降に修復されている。現在の保存状態は良好である。2本の柱に丸太を取り付けた門型は、説明に残る形状とは異なる。

理外門の意匠を表現しているとはいえ、また、位置も人が通る場所に設置されていない。

石標の刻字が読みにくく、名称の判別が難しくなっている。



写真 4-36 : 現在の理外門
(2022. 07. 030 撮影)

①-23. 宇宙館 (71: 講義室)、皇国殿 (72: 宇宙館の内室)

昭和 60~63 年 (1985~1988)、平成 30~31 年 (2018~2019) に修復された。

現在は、扉と雨戸の納まりが悪く、基礎周りの舗装が劣化し、ひびが入った状態である。樹木の枝葉が屋根を覆い、落枝により破損するおそれがある。

建物内は常時公開されていないが、特別公開時には建物内を見学することができる。また、講演会などのイベントで利用される。



写真 4-37 : 屋根上方の枝葉が覆う状況
(2022. 11. 14 撮影)



写真 4-38 : 扉と雨戸の納まり
(2022. 07. 30 撮影)



写真 4-39 : たたきのひび
(2022. 07. 30 撮影)

①-24. ^{さんがくてい}三学亭 (73 : 日本のな神道、儒教、仏教から、三人の大家を祀った三角形の四阿)

昭和 60～63 年 (1985～1988)、平成 30～31 年 (2018～2019) に修復されたが、木の柱や軒桁に傷みが見られる。

石額の彫刻は当時のままの状態です飾られ、劣化が著しい。三学亭の基礎は浮き上がり、外周の石材も摩耗している。また、三学亭に登る石階段の目地が痩せ、ぐらつきが生じている箇所がある。

石標の刻字が読みにくく、名称の判別が難しくなっている。



写真 4-40 : 石額の劣化の状態
(2022. 07. 08 撮影)



写真 4-41 : 軒桁の傷み
(2022. 07. 08 撮影)



写真 4-42 : 浮き上がった基礎
(2022. 07. 08 撮影)

①-25. ^{むじんぞう}無尽蔵 (75 : 陳列所)、^{こうじょうろう}向上楼 (76 : 無尽蔵の二階)、^{ばんしょうこ}万象庫 (77 : 無尽蔵の一階)

平成 4 年 (1992) に修復された。建物内は常時公開されておらず、期間を限定して見学できるようにしている。建物内には収蔵物がそのまま置かれている。

現在の保存状態は良好である。

石標の刻字が読みにくく、名称の判別が難しくなっている。



写真 4-43 : 万象庫の収蔵物
(2022. 07. 08 撮影)

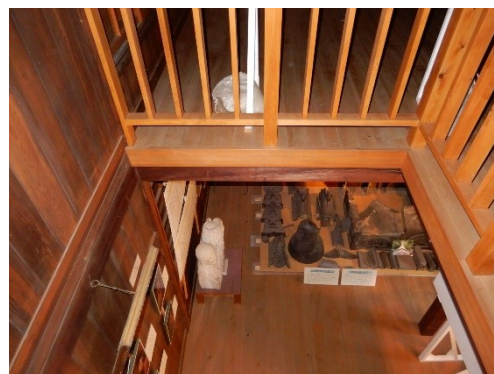


写真 4-44 : 向上楼からみた万象庫
(2022. 07. 08 撮影)

②. 石造物

石造物は、12箇所全ての全てが残存している。「哲学閣」や「真理界」の石柱、「唱念塔」や「聖哲碑」などの漢詩や肖像が刻まれた碑、「狸燈」、「鬼燈」まで様々である。

②-1. 哲学閣^{てつがくかん}（1：右側 入口の門柱）、真理界^{しんりかい}（2：左側 哲学閣と対をなしている入口の門柱）

哲学堂入口の左右対となった石柱であるが、石柱の脇には鋼製の門扉が設置されている。石柱は、傾きがみられ、石柱表面の汚れが目立つ状態である。



写真 4-45：表面の汚れ
(2022. 11. 14 撮影)

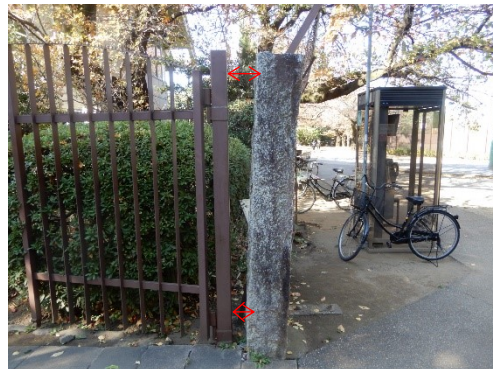


写真 4-46：石柱の傾き
(2022. 11. 14 撮影)

②-2. 唱念塔^{しょうねんとう}（16：四聖堂内の石塔）

常時公開されていない四聖堂内にあり、保存状態は良い。

体験によって伝えられる哲学として、「唱念塔」に刻まれた「南無絶対無限尊」の念唱を勧めているが、日常的には四聖堂内部に置かれている唱念塔を見ることができない。



写真 4-47：唱念塔と周辺の状態
(2022. 07. 08 撮影)

②-3. ^{ふでづか}筆塚（18：筆の石碑）

周辺を樹木に囲まれた斜面地にあり、通路の脇に設置されている。

周辺表土の流出により、基礎下部のコンクリートが地面から露出している。また、全体的に汚れが目立つ。



写真 4-48：筆塚と周辺の状況
(2022. 08. 26 撮影)



写真 4-49：基礎コンクリートの露出
(2022. 07. 08 撮影)

②-4. ^{さんそひ}三祖碑（25：哲学の元祖の三人の肖像を彫刻した石碑）

平成 22 年（2010）に修復された。石碑の汚れが目立ち、撰文の判読が難しい。



写真 4-50：三祖碑の汚れ
(2022. 11. 27 撮影)

②-5. ^{りとう}狸燈（39：狸の灯籠）

表面が風化し形に丸みを帯び、当時の形から変化している。

狸の腹に仕込まれた火袋は消失し、狸燈の意匠が十分に伝えられていない。また、頭の上の傘は消失し、取り付け部が破損している。



写真 4-51：傘が消失した頭部の破損状況
(2022. 07. 08 撮影)

②-6. 鬼燈 (52: 鬼の灯籠)

表面が風化し形に丸みが帯び、当時の形から変化している。

鬼の頭の上の火袋が消失し、鬼燈の意匠が十分に伝えられていない。

また、苔が付着し汚れが著しい。



写真 4-52 : 火袋の消失状況
(2022. 07. 08 撮影)

②-7. 聖哲碑 (63: 絶対城内にある四聖の肖像碑)

絶対城に安置していることから、常時公開はされていない。本体の保存状態は良い。

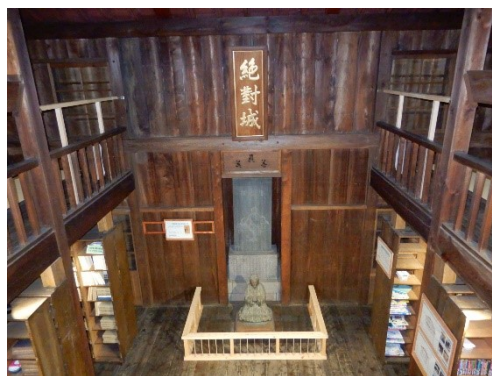


写真 4-53 : 聖哲碑と周辺の状況
(2022. 07. 08 撮影)

②-8. 記念碑 (66: 絶対城の前にある唐子の碑)

多少の汚れが見られるが、保存状態は良い。

石板に刻まれた文字は読みにくいが傍に解説板が設置されている。



写真 4-54 : 左の唐子
(2022. 07. 08 撮影)



写真 4-55 : 右の唐子
(2022. 07. 08 撮影)

すずりづか
②-9. 硯塚 (74 : 硯の石碑)

多少の汚れが見られるが、本体の保存状態は良い。また、周辺を竹に覆われた、目立ちにくい場所にある。



写真 4-56 : 硯塚の状況
(2022. 07. 30 撮影)

③. 地象

地象は「自然井」や「心字池」、「進化溝」などの池泉や流れ、「神秘洞」や「心理崖」などの石窟や石積などで16箇所ある。妙正寺川沿いの低地に多く、これまでに妙正寺川の氾濫や河川改修の影響を受け、後にルネッサンス整備事業により復元された。

しんかこう
③-1. 進化溝 (30 : 水を引いて造られた溝)

平成3年(1991)に復元された。その後、平成27年(2015)に博物隄の植生を整理し、溝の形状が明瞭となった。

元々は湧水を水源としていたものであるが、現在は井水を循環させているため、当時の水量や溝の形状は異なっている。



写真 4-57 : 進化溝と周辺の状況
(2022. 11. 14 撮影)

りかだん
③-2. 理化潭 (31 : 水を湛えた池)

神秘洞の流水の消滅により枯渇していたが、平成3年(1991)に復元された。現在は、井水を利用した自然井から水を湛えている。

石標は、植物に覆われ視認しにくい。さらに、刻字が読みにくく、名称の判別が難しくなっている。



写真 4-58 : 理化潭の状況
(2022. 11. 14 撮影)

はくぶつてい
③-3. 博物隄 (32 : 溝に沿って造られた山側の堤)

平成3年(1991)と平成27年(2015)に修復された。平成27年の修復では、樹木の根により崩れかけた石積を、樹木の根の除去とともに積み直し、周辺の植生を整理した。

現在は、再び低木が繁茂した状態となり、石標も視認しにくい。



写真 4-59 : 博物隄と周辺の状況
(2022. 07. 08 撮影)

すうりこう
③-4. 数理江 (33 : 妙正寺川)

現在は、河川改修により護岸を整備し深く掘り下げられ、当時の姿とは変わっている。



写真 4-60 : 現在の数理江
(2022. 07. 08 撮影)

せいかいす
③-5. 星界洲 (36 : 川の対岸の域)

詳細は不明であり、現在は、消失している。



写真 4-61 : 星界洲の跡地 (現在は消失)
(2022. 07. 08 撮影)

しんびどう
③-6. 神秘洞 (38 : 進化溝の左にある石窟)

長く水が枯渇していたが、平成3～4年(1991～1992)と平成27年(2015)に修復された。平成27年に水が流れ出るように整備されたが、現在は水が流れていない。さらに、石の間から草が生えてきている。

石標は洞窟の奥にあり見ることができない。



写真 4-62 : 神秘洞と周辺の状況
(2022. 07. 08 撮影)



写真 4-63 : 石の間の草
(2022. 07. 08 撮影)

③-7. 後天沼 (40 : 狸燈の傍らにある小さな池)

平成3年(1991)に復元された。しかし、復元されたものは、古写真に写る当時の姿と異なり、「扇状沼」の言葉で示されるような形状にはなっていない。現在は、池底に落ち葉が一面に広がり堆積している。



写真 4-64 : 後天沼の形状
(2022. 07. 08 撮影)



写真 4-65 : 池底の落ち葉の堆積
(2022. 07. 08 撮影)

③-8. 自然井 (42 : 天然泉)

平成3年(1991)に復元された。現在は、湧水が涸れてしまったため、井水をポンプで循環させ、水を噴き出させている。当時の形状など詳細は不明である。また、吐水口の落葉落下防止のため竹で塞がれている。

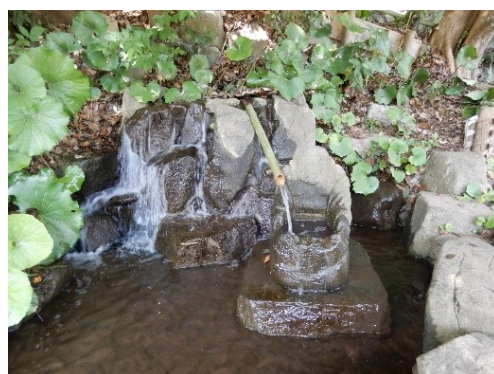


写真 4-66 : 自然井の噴き出し
(2022. 07. 08 撮影)

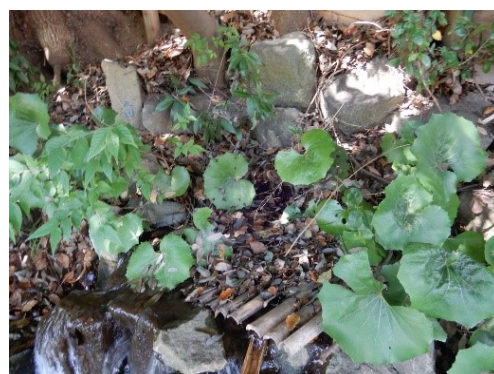


写真 4-67 : 落葉の落下防止
(2022. 07. 08 撮影)

③-9. ^{しんじいけ}心字池（48：唯心庭の中央にある池）

平成3年（1991）に修復されたが、「心」の字は形成されていない。河川改修により池の形状は当時の姿から変わっている。

古写真では明るく池の周辺は芝で覆われていたが、現在は人の踏み込みにより地面が固まり裸地となっている。

落ち葉が多く堆積し、水質が悪化している。



写真 4-68：現在の心字池の状況
（2022. 07. 08 撮影）

③-10. ^{りんりえん}倫理淵（49：心字池の淵）

平成3年（1991）に復元された。詳細は不明であるが、心字池と同様に河川改修により当時から大きく改変されている。

古写真では明るく池の周辺は芝で覆われていたが、現在は人の踏み込みにより地面が固まり裸地となっている。また、倫理淵を示す範囲がわかりにくい。



写真 4-69：倫理淵と周辺の状況
（2022. 11. 14 撮影）

③-11. ^{りせいじま}理性島（51：池の中心の小島）

平成3年（1991）に復元されたが、心字池と同様に河川改修とともに当時から大きく改変されている。

心字池の中心にある小島であるとされるが、古写真からも島のような形状のものは確認できず、詳細は不明である。



写真 4-70：理性島と周辺の状況
（2022. 07. 08 撮影）

③-12. 心理崖 (50 : 山側の崖)
しんりがい

ササや実生木で覆われ、心理崖を示す範囲がわかりにくい。

また、基礎部分の土壌が浸食され、基礎の一部が浮き出るとともに、樹木の根が構造物に侵入し石積の一部が破損している。



写真 4-71 : 心理崖と周辺の状況
 (2022. 07. 08 撮影)



写真 4-72 : 心理崖の石積の破損
 (2022. 07. 08 撮影)

③-13. 先天泉 (54 : 天然泉)
せんてんせん

平成3年(1991)に復元された。現在は、湧水が涸れてしまったため、井水をポンプで循環させ、水を噴き出させている。

当時の形状など詳細は不明である。



写真 4-73 : 先天泉の噴き出し
 (2022. 07. 30 撮影)



写真 4-74 : グレーチングの露出
 (2022. 07. 30 撮影)

③-14. 相対溪 (67 : 時空岡の区画溝)
そうたいけい

平成24年(2012)以降に修復され、溝の形状が認識しやすくなったものの、周辺の樹木が覆っている場所もあり、一部で相対溪の形状がわかりにくい。



写真 4-75 : 相対溪の状況
 (2022. 07. 30 撮影)

④. 植物

植物は、「天狗松」、「百科叢」、「万有林」、「物字壇」、「幽霊梅」の5箇所である。「天狗松」、「百科叢」、「万有林」はいずれも環境の変化により消失し、現存しない。また、初代「幽霊梅」も消失していたが、現在は二代目が植えられている。

④-1. 天狗松 (12: ひと際高くそびえる松)

昭和8年(1933)に枯死し、現在も消失したままである。また、天狗松の周りには木葉天狗と呼ばれた数百株の小松も消失している。

石標、解説板、当時の天狗松の写真が簡易に取り付けられているが、見えにくく植物に覆われやすい場所にあり、その存在がわかりにくい。

また、解説板に取り付けられた古写真及びその解説が読みにくい。



写真 4-76 : 天狗松の石標と写真展示
(2022. 07. 08 撮影)

④-2. 百科叢 (14: 鬼神窟前の林や茂みのある庭)

現在は、ササが繁茂し低木などに覆われている状態である。広がりを持つ時空岡に対する林や茂みを表したものであるが、あまり目立たずその存在がわかりにくい。

飛石や灯籠が配置されているが、草木に覆われている。



写真 4-77 : 現在の百科叢
(2022. 07. 08 撮影)

④-3. 万有林 (22: 松林)

当時は松林であったが、現在は常緑の大径木が増え、松林の雰囲気は失われている。

現在は石標が残るのみである。



写真 4-78 : 現在の万有林
(2022. 07. 08 撮影)

ぶっじだん
④-4. 物字壇 (28 : 「物」の字が造形された場所)

現在は、リュウノヒゲのみで文字辺を形成し、縁石と擬木ロープ柵により「物」の周りを囲んでいる。

リュウノヒゲの生育は悪く、雑草が生えているため、「物」の字が目立たない状態である。



写真 4-79 : 現在の物字壇
(2022. 07. 08 撮影)

ゆうれいばい
④-5. 幽霊梅 (70 : 理想橋の脇にある梅の木)

現在の梅は二代目である。ウメの生育は良い。石標は繁茂した低木で隠れている。



写真 4-80 : 幽霊梅の根元と低木
(2022. 07. 30 撮影)

⑤. 空間

空間は、16箇所を数えるが他の種別のもと重複し、それらを除くと11箇所である。空間には「時空岡」、「懐疑巷」、「感覚巒」の広場や地点、「経験坂」、「直覚径」、「認識路」の坂道などを示すものがある。また、妙正寺川沿いの低地では、「唯物園」、「唯心庭」の空間を示すものがある。

⑤-1. 時空岡 (13 : 四聖堂周辺の平地)

平成3年(1991)に修復されたが、雨水の浸食により舗装面が劣化し、一部に苔が生えている。苔が生えた場所は、滑りやすく歩きにくい状態である。

また、降雨時には、排水不良により、地表面に水溜まりが生じる。



写真 4-81 : 時空岡の舗装面の劣化
(2022. 11. 27 撮影)



写真 4-82 : 時空岡の舗装面の苔
(2022. 07. 08 撮影)

⑤-2. 三祖苑 (23 : 三祖碑のある空間)

かつて修景的な石積が配置されていたが、現在は、土砂が堆積し地中に埋もれ、その姿があまり見えなくなっている。

土砂の浸食防止となる板柵を設置しているが、擬木ロープ柵は劣化し、一部の柱が傾いている。



写真 4-83 : 板柵と擬木ロープ柵の状況
(2022. 07. 08 撮影)

⑤-3～8 までの坂道（経験坂、直角径、認識路）や地点（懐疑巷、感覚巒、二元衢）を示す七十七場の現況について、以下に示す。

- ・平成3年（1991）に修復された。
- ・雨水の浸食により舗装面の劣化、谷側の路肩が一部崩壊している。
- ・階段の踏面の石貼り目地が流出により痩せており、凹凸が深い。
- ・柵の基礎や柱の倒壊などの恐れや危険性がある。
- ・柵が劣化し破損箇所が多く、応急処置的な修理が施されている。
- ・柵のデザインが統一されていない。

また、各詳細については以下に示す。

⑤-3. 懐疑巷（19：唯物園と唯心庭へ続く道の地点）

哲学上の分岐点を表している「場」であるが、樹林に囲まれ一見立ち止まらなるとわかりにくい。

舗装表面が著しく劣化している。



写真 4-84：懐疑巷と周辺の状況
(2022. 07. 08 撮影)

⑤-4. 経験坂（20：唯物園に進む石の階段の坂道）

懐疑巷から唯物園に達する道であるが、その対象そのものや、位置（起終点）がわかりにくい。



写真 4-85：経験坂と周辺の状況
(2022. 07. 08 撮影)

⑤-5. 感覚巒（21：経験坂から唯物園に行く途中の地点）

樹林に囲まれ、一見立ち止まらなるとわかりにくい場所にある。

また、道から下を臨むと、小池が扇面となり、小橋が扇柄となる形を見ることができるとされるが、樹林に囲まれその視界が阻まれている。



写真 4-86：感覚巒と周辺の状況
(2022. 07. 08 撮影)

⑤-6. 二元衢にげんく（44：唯物園と唯心庭へ続く地点）

唯物園と唯心庭の分岐点であるが、石標と解説板が置かれているのみで、岐路にあたる地点であることがわかりにくい。

舗装表面が著しく劣化している。

石標の刻字が読みにくく、名称の判別が難しくなっている。



写真 4-87：二元衢と周辺の状況
(2022. 07. 08 撮影)

⑤-7. 直覚径ちよっかくけい（56：唯心庭から時空岡への坂道）

唯心庭から時空岡へと進む二つの道の一つである。まっすぐに登る直覚径は、その対象そのものや、位置（起終点）がわかりにくい。

また、樹木に囲まれ、それぞれの道の関係や、坂道の特徴を認識することが難しい。



写真 4-88：直覚径と周辺の状況
(2022. 07. 08 撮影)

⑤-8. 認識路にんしきろ（57：唯心庭から時空岡へと迂回する坂道）

唯心庭から時空岡へと進む二つの道の一つである。迂回して登る認識路は、その対象そのものや、位置（起終点）がわかりにくい。

また、樹木に囲まれ、それぞれの道の関係や、坂道の特徴を認識することが難しい。



写真 4-89：認識路と周辺の状況
(2022. 07. 08 撮影)

⑤-9. 論理域 (58 : 唯心庭から時空岡周辺)

認識路の途中にある空間であるが、その対象そのものや、位置（起終点）がわかりにくい。

また、樹林に囲まれ、区域の特徴を認識することが難しい。



写真 4-90 : 論理域と周辺の状況
(2022. 07. 30. 撮影)

⑤-10. 哲史蹊 (26 : 万有林に設けた哲学の小道)

万有林と唯物園をつなぐ場所の道と思わ
るが、現在は消失している。

世界の哲学者に関する年表が刻まれた哲史
塀に続くとあるが、当時の詳細は不明である。



写真 4-91 : 哲史蹊の跡地の状況（現在は消失）
(2022. 07. 30. 撮影)

⑤-11. 唯物園 (27 : 物字壇のある庭園)

平成 3 年 (1991) と平成 26～27 年 (2014～2015)
に修復された。

平成 26～27 年の整備では、広場内に耐久性のあ
る土系舗装材が敷設された。



写真 4-92 : 唯物園と周辺の状況
(2022. 07. 08. 撮影)

⑤-12. ^{がっかいづ}学界津（45：二元衢より下にある水辺あたり）

妙正寺川の河床が掘り下げられたことにより、現在は消失し、その対象そのものや、位置（起終点）がわかりにくい。

水辺を示し、川の水で手を洗う場であったと思われるが、詳細は不明である。



写真 4-93：学界津の周辺の状況
(2022. 07. 08. 撮影)

⑤-13. ^{ゆいしんてい}唯心庭（47：心字池の一带の庭園）

平成3年（1991）に修復された。乱張の石舗装と土系舗装で構成されるが、裸地も多い。

現在は、周辺の樹木が大きく茂り、暗い空間となっている。



写真 4-94：唯心庭と周辺の状況
(2022. 07. 08. 撮影)

⑤-14. ^{ぞうかかん}造化澗（43：川に沿って唯心庭に至る周辺の断崖一帯）

中野区への移管以降は、大規模に修復されたことはない。現在は、周辺表土の流出により基礎の一部が露出したり、裏込めが浸食されたりするなどの影響を受けている。

基礎下部には破損がみられ、石積の上に生えた樹木の根が伸長し、石積の構造を弱めている。さらに、目地に隙間が生じており、土砂が流出し続けると石積が崩壊するおそれがある。

現在は、かつてのような湧水はなくなっている。



写真 4-95：造化澗と周辺の状況
(2022. 07. 08. 撮影)



写真 4-96 : 石積上の破損
(2022. 07. 08 撮影)



写真 4-97 : 石積目地の破損
(2022. 07. 08 撮影)

⑤-15. 独断峡 (46 : 断崖を切り開いた道)
どくだんきょう

元々、断崖を切り開いて細長く狭い道を作った場所である。当時の様子や現在の形状にいつ頃整備されたかは不明である。

中野区への移管以降は、大規模に修復されたことはない。現在は、周辺表土の流出により基礎の一部が露出したり、裏込めが浸食されたりするなどの影響を受けている。

基礎下部には破損がみられ、石積の上に生えた樹木の根が伸長し、石積の構造を弱めている。さらに、目地に隙間が生じている。

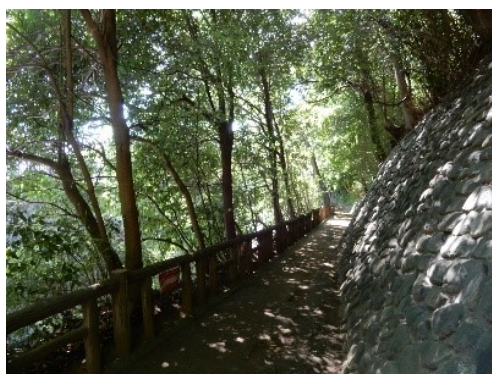


写真 4-98 : 独断峡と周辺の状況
(2022. 07. 08 撮影)



写真 4-99 : 石積上の破損
(2022. 07. 08 撮影)



写真 4-100 : 石積目地の破損
(2022. 07. 08 撮影)

2) 広場等の現状

広場等の現状を以下に整理する。

①. つつじ園・菖蒲池

つつじ園では、ツツジなどの低木は良く管理され、また、マツやサクラなどの大きく成長した樹木が、緑量の多い景観を形成している。都立公園期以降に植栽し成長した樹木が、暗い雰囲気を作ってしまう場所がある。

また、サクラなどの枯死又は衰弱した樹木がある。特に妙正寺川沿いのサクラの生育状況は悪く、枯死したサクラの根は妙正寺川の護岸と一体となり抜根が出来ない状況である。抜根を行う場合は、妙正寺川の護岸の改修にあわせて実施する必要がある。

また、つつじ園の小高い丘の周辺では樹木が成長し、丘の上からの眺望を妨げている。

園路や広場などの舗装表面の凹凸が激しく老朽化がみられる。

菖蒲池では、水際にハナショウブが生える植え込み地はあるが、北側の植え込み地ではダスト舗装のアルカリ分が流入し、ハナショウブが生育できるような土壌の環境になっていない。また、池は、周辺の樹木の落ち葉や鯉などの排泄物をろ過することを前提にした循環システムとなっていないため、水質が悪化している。



写真 4-101 : つつじ園の植栽
(2022. 08. 26 撮影)



写真 4-102 : つつじ園の小高い丘の植栽
(2022. 07. 30 撮影)



写真 4-103 : 菖蒲池の水質
(2022. 07. 30 撮影)

② . 梅林

梅林は、七十七場のある場所から妙正寺川を挟んだ対岸にあり、梅林内は散策できる園路と枯れ流れが整備されている。妙正寺川沿いに散策する人たちは梅林を通過することが多く、梅林の中で休息など利用する人は少ない。

梅林では、樹木が大きく成長し、緑量の多い景観を形成している。一部では大きく成長した樹木が、周辺の花木などを被圧しているものもある。また、梅林内では、ウメが目立たない存在となっている。

「哲学堂パークボランティア」の活動により、草花の植栽、管理などの利用が行われている。



写真 4-104 : 梅林内の花壇
(2022. 07. 30 撮影)



写真 4-105 : 梅林内の園路及び植栽の状況
(2022. 07. 30 撮影)

③. 哲学の庭

哲学の庭は、平成 21 年（2009）に群像彫刻を配置し整備した広場で、外周には緩衝植栽帯が設けられている。南側の東京都の施設との間には、建物を遮蔽するようにスダジイとシラカシが列植されている。

整備当時より植栽が成長し、広がった樹冠の影になり、地表の芝の生育が悪くなっている箇所がある。

また、隣地の室外機や建物を隠すためのネットなどが景観上目立っている。



写真 4-106 : 哲学の庭の外周植栽
(2022. 08. 26 撮影)

④. さくらの広場

地域の方々にサクラの花見の場所として良く利用されている。しかし、サクラの樹齢が 70 年を超えるほどになり、高齢化したサクラが一斉に衰弱し、枯損が生じている。

現在、新たにサクラを植栽しているが、サクラの抜根後の土壌改良をしないと、サクラの生育が悪いなど、更新に時間と手間がかかる状況にある。

妙正寺川護岸上のサクラも同様に枯損しているものが多い。また、根が護岸構造物と一体化しており、更新の計画が立てにくい状況にある。

さくらの広場の園路や広場などは、舗装表面の凹凸が激しく老朽化がみられる。



写真 4-107 : さくら広場のサクラの更新の状況
(2022. 08. 26 撮影)

⑤. 児童遊園

児童遊園が設けられた財団運営期には、梵天臺（すべり台の山）、ブランコ、砂場が設置されていた。児童遊園と梵天臺の間にフェンスが設置され、梵天臺を利用したすべり台はなくなった。ブランコや砂場が設置されており、近隣の子どもたちに利用されている。

現在のブランコや砂場は、都立公園期以降に整備されたものである。また、複合遊具は、中野区で平成 25 年度（2013）に撤去し、平成 26 年度（2014）に設置したものである。

ブランコの安全柵の基礎が地表面に現れ、遊具配置の安全基準には一部適合していない箇所がある。

広場外周にサクラ、ヒマラヤスギ、ケヤキ、プラタナスの大径木が植栽されている。ケヤキ、プラタナスは大きく成長し、樹形も良く、広場における緑陰と植栽の景観を形成しているが、高齢化により衰弱したサクラや、樹形が崩れたヒマラヤスギがある。



写真 4-108：児童遊園の広場
(2022. 08. 26 撮影)



写真 4-109：児童遊園の遊具
(2022. 07. 30 撮影)

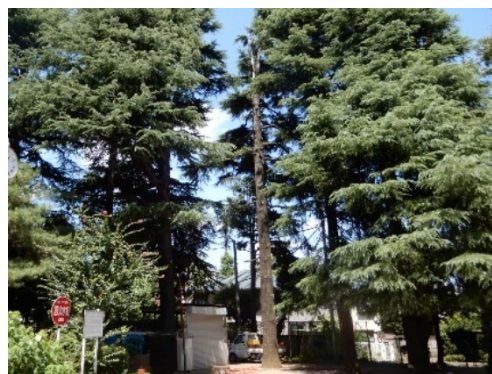


写真 4-110：樹形が崩れたヒマラヤスギ
(2022. 07. 30 撮影)

⑥. エントランス

令和 4 年（2022）2 月にエントランスの道路沿いにあった民地側のイチョウ並木の一部が伐採された。伐採されたものも含め民地側のイチョウは、名勝指定範囲外（本公園の敷地外）に植栽されたものである。

エントランスのビスタを形成するイチョウが、伐採され、財団運営期以前からの哲学堂公園の重要な景観が変わっている。



写真 4-111：伐採されたイチョウの跡
(2022. 07. 30 撮影)

⑦. 運動広場（テニスコート・野球場）

テニスコート及び野球場では、利用者の快適性や競技の安全性などから、施設の改修が行われてきた。

テニスコート及び野球場の外周には、競技の球が飛び出ないように高いフェンスを設置し、競技フィールドには人工芝を敷設、夜間の利用に対応してナイター照明が設置された。

令和2年（2020）には野球場のナイター照明設備を更新し、フィールドを人工芝に変える整備を実施した。

テニスコートについては、国際条約により夜間照明の水銀灯の製造や輸出入が禁止となり、今後は交換などのメンテナンスができなくなることからLEDを使用した照明に更新をする必要がある。また、人工芝も製品の寿命を迎えるため、張り替える予定である。



写真 4-112：テニスコートの人工芝と夜間照明灯（2022.08.26撮影）

3) 植生の現状

哲学堂七十七場の植生の現状について、「台地部」、「斜面地部」、「低地部」に分けて以下に整理する。

①. 台地部

広場内の樹木は、成長した老木や、枯れたものがある。

「三学亭」の斜面では、実生から成長した樹木が築山を覆う。

「時空岡」周辺及び一部の斜面地の通路脇にはクスノキが多い。「時空岡」周辺では、建物に接近して生育するものがある。財団運営期に玄一がクスノキの苗木を国から交付を受けて育てた¹との記録があることから一部はこの時に植栽され、さらにそこから実生で生育したものであると考えられる。



写真 4-113 : 衰弱したサクラと三学亭周辺の植生の状況 (2022. 07. 30 撮影)

②. 斜面地部

高木層は大径木が点在し、地形の勾配により、比較的緩やかな斜面ではコナラなど、やや急斜面ではシデ類など、急斜面ではシラカシ、ヒサカキ、トウネズミモチなどの常緑広葉樹などが優占する。

その中でも、トウネズミモチは大きく成長し、高木層を構成する場所がある。また、通路沿いには、植栽を起源とするクスノキの大径木がみられ、また、実生から生育したものも多い。

特に西側に大径木が多く生育し、樹冠を広げ上部層を優占する。林床は、急傾斜地においてアズマネザサ、その他は、ヒサカキなどの常緑樹が多い。また、トウネズミモチなども多く、これらは鳥類により、散布されたものと思われる。

唯物園周辺は、平成 27 年 (2015) の整備で高木層が伐採され明るい空間となっている。

また、近年、コナラの大径木 (令和 4 年現在で 8 本) がナラ枯れ病に罹っている。



写真 4-114 : 斜面地の常緑樹の生育状況 (2022. 07. 30 撮影)



写真 4-115 : ナラ枯れ病になったコナラ (2022. 07. 30 撮影)

¹ 『哲学堂』(昭和 16 年 (1941) 10 月,財団法人哲学堂 石川義昌編,財団法人哲学堂事務所) P4

③. 低地部

妙正寺川との狭い範囲や唯心庭周辺は、河川沿いに常緑樹が密集し、暗い空間となっている。

唯心庭周辺は、スタジイなどが大きく成長している。

唯物園の周辺は林床に日照が入るように適度に樹木が管理されている。また、唯物園内のサルスベリが衰弱している。

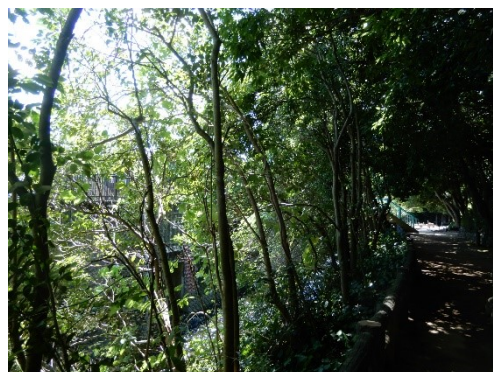


写真 4-116：低地部（妙正寺川沿い）の植生の状況（2022.07.30 撮影）

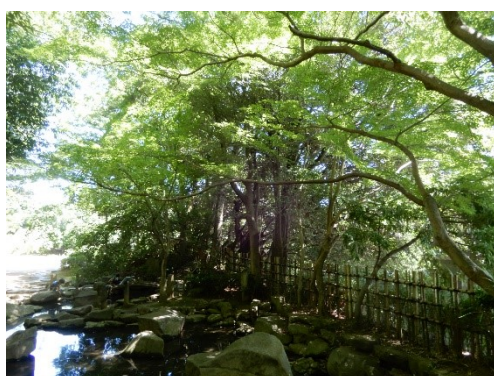


写真 4-117：唯心庭の植生の状況（2022.07.30 撮影）

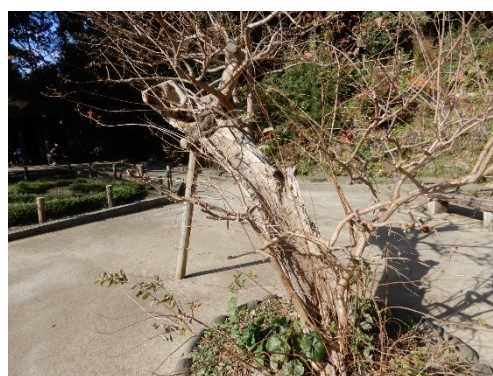


写真 4-11：唯物園の衰弱したサルスベリ（2022.11.14 撮影）

4) 景観

景観の現状について、「台地部」、「斜面地部」、「低地部」、「植栽」、「園内からの景観」、「園外からの景観」に分けて以下に整理する。

①. 台地部

台地上のエリアでは、平成 28～29 年（2016～2017）の修復の際に四聖堂周辺の低木などの植栽は整理され広場内で見通しが確保されたが、広場外周は樹木で覆われている。

また、樹木が大きく成長したことにより、樹木と建物とのバランスが変化し、建物の存在感がわかりにくくなっている。



写真 4-119：広場（時空岡）の景観
(2022. 07. 08 撮影)



写真 4-120：広場（時空岡）の景観
(2022. 07. 08 撮影)



写真 4-121：六賢台及びその周辺の景観
(2022. 07. 08 撮影)

鬼神窟前の庭園である百花叢では、建物から庭（百科叢）を見越して時空岡方向を見た時に常緑樹が生い茂り、見通しが効かず、時空岡の景観や建築物群が見えにくくなっている。



写真 4-122：百科叢の景観
(2022. 07. 08 撮影)

②. 低地部

かつての低地部は水が湧き出て唯物園や唯心庭の水景を作っていたが、自然の湧水はなくなってしまった。現在は井戸を掘り、水を循環させ、人工的ではあるが水の水景を復元している。

唯物園では、明るい斜面の脇を水が流れる景観が保たれているが、唯心庭では心字池周辺には裸地が目立ち、常緑広葉樹に覆われた暗い空間となっている。



写真 4-123 : 唯物園内の流れの景観
(2022. 07. 30 撮影)

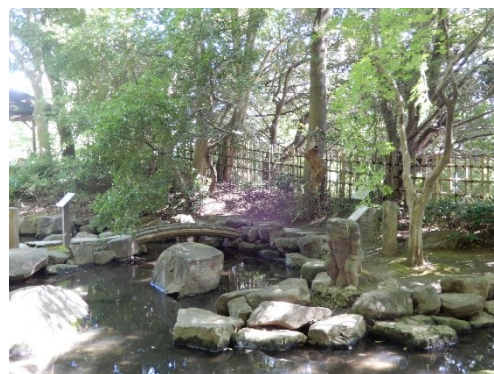


写真 4-124 : 唯心庭内の心字池の景観
(2022. 07. 08 撮影)

① . 斜面地部

台地から妙正寺川沿いの低地までの斜面には階段や石積が設置され、地形の変化の特徴を活かした景観が存在する。

斜面地ではササや常緑樹に囲まれる。また、常緑樹が成長し過ぎて圧迫感を与える場所がある。

通路周辺は、常緑樹が生い茂り、眺望が効かなくなっている。さらに、通路沿いの柵は破損や欠損が見られる。また、柵の意匠が統一されていない。



写真 4-125 : 斜面中腹の景観
(2022. 07. 08 撮影)

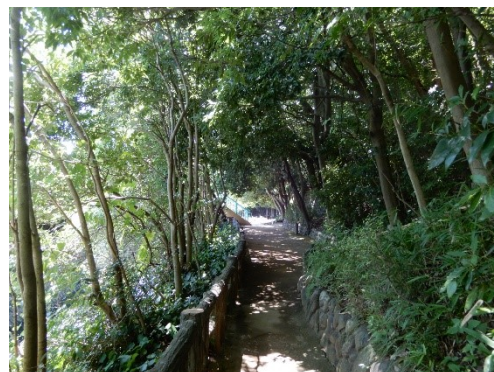


写真 4-126 : 妙正寺川沿いの景観
(2022. 07. 30 撮影)



写真 4-127 : 斜面に設置された石積の景観 (2022. 07. 30 撮影)



写真 4-128 : 斜面の通路の景観
(2022. 07. 30 撮影)

④. 植栽（花、紅葉）

さくらの広場や時空岡のサクラ、梅林のウメ、つつじ園のツツジなど花の名所となっているが、老齢化したソメイヨシノの多くは衰弱している。

また、三学亭周辺は、密な植栽間隔によりモミジなどは、樹形が整っていない。



写真 4-129：サクラ、ウメ、紅葉の景観（哲学堂公園 HP）

⑤. 園内からの景観

かつて丘の上から外望できた視点場（帰納場・意識駅）では、樹木が視界を遮り見通しがなくなっている。

絶対城の上部の展望台である観察境が復元されたが、観察境から遠く富士山まで見渡せた景観は、樹木で覆われ、富士山を眺めることはできていない。

低地からも妙正寺川は河川改修により河床が低くなり、川沿いには常緑樹が生い茂り、妙正寺川との連続性が失われている。



写真 4-130：意識駅からの景観
(2022. 07. 30 撮影)



写真 4-131：観察境からの景観
(2022. 07. 08 撮影)

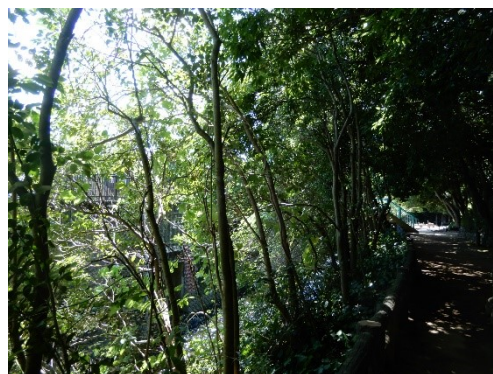


写真 4-132：低地から妙正寺川の景観
(2022. 07. 30 撮影)

妙正寺川を挟んだ唯物園の正面には、昭和 58～61 年（1983～1986）に整備された妙正寺川第一調節池の越流堤や、菖蒲池の正面にはマンションが見える。



写真 4-133 : 唯物園正面の景観
(2022. 07. 30 撮影)



写真 4-134 : 菖蒲池正面の景観
(2022. 07. 30 撮影)

⑥. 園外からの景観

妙正寺川対岸からの景観では、樹木が大きく成長し、哲学堂公園全体が緑で覆われた景観となっている。

妙正寺川対岸から眺めた唯物園は、地形を活かした構造物、通路などを見ることができるが、唯心庭周辺では樹木の枝葉が広がり、緑量の多い景観となっている一方で、唯心庭周辺の様子を見ることはできない。



写真 4-135 : 哲学堂公園の樹林の景観 (2022. 11. 14)



写真 4-136 : 唯物園の景観
(2022. 07. 30 撮影)

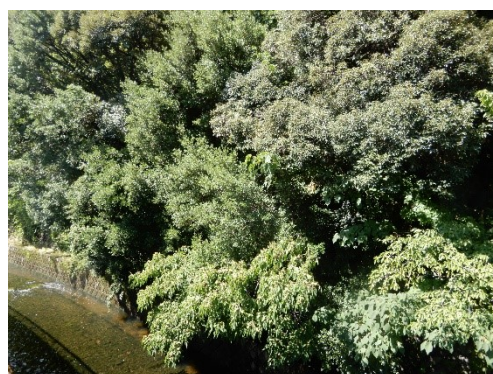


写真 4-137 : 唯心庭がある場所の景観
(2022. 07. 30 撮影)

(2) 活用に関する現状

哲学堂公園は、主に指定管理者により維持・利用・運営が行われている。哲学堂公園の活用の現状について以下に整理する。

1) イベント等の開催状況

哲学堂公園では様々なイベントを開催している。

①. 七十七場を活用した取組

哲学堂公園の文化的価値を、より多くの方々が体験できる取組として、「古建築物公開」、「絶対城での図書タイム」、「哲学堂七十七場を巡る公園ガイドツアー」、「哲学堂公園講座」を開催している。

また、古建築物を使用して「絵本のよみきかせ」、「哲学堂と民族芸能のひびき（南米音楽やインドネシアの伝統芸能を繰り広げる音楽事業）」、「哲学堂辻講釈“怪談の夕べ”」、さらに、「茶の湯体験」や「お茶のいれ方教室」などの恒例行事を行っている。



写真 4-138 : 「哲学堂七十七場ガイドツアー」
(指定管理者提供)



写真 4-139 : 「哲学堂公園講座」
(指定管理者提供)



写真 4-140 : 「絵本のよみきかせ」
(指定管理者提供)



写真 4-141 : 「哲学堂辻講釈 “怪談の夕べ”」
(指定管理者提供)



写真 4-142 : 「民族芸能のひびき “folklore”」(指定管理者提供)



写真 : 4-143 「民族芸能のひびき “ジャワ舞踊”」(指定管理者提供)

中野区立歴史民俗資料館主催による「もっとしりたい哲学堂」、「一から学ぶ哲学堂」、中野区が主催する生涯学習大学の受講生の交流会「青空教室」などを開催している。2日間で行う「一から学ぶ哲学堂」は、東洋大学の連携事業として井上円了哲学センターから講師を招いて行っている。

哲学堂公園の情報発信の取組として、「散策ルートマップの制作・配布」、「遊び心の写真塾」を開催している。

散策ルートマップは、新宿未来創造財団との連携事業として、哲学堂公園と新宿区立林芙美子記念館を結ぶ散策ルートマップの制作・配布を行っている。両施設内に相互施設の利用案内を目的とした解説パネルなどを展示した特設コーナーを設け、哲学堂公園の魅力を広く発信している。

また、「遊び心の写真塾」では、プロ写真家を講師に招き、写真を撮る楽しさや、初心者向けの技術を学ぶことのできる写真の撮り方教室を開催し、哲学堂公園の魅力の発信に貢献している。



図 4-2：哲学堂公園・林芙美子記念館 散策利用ルート案内マップ (指定管理者提供)



写真 4-144：哲学堂公園紹介パネル設置状況 (林芙美子記念館 掲示施設) (指定管理者提供)



写真 4-145：林芙美子記念館紹介パネル設置状況 (哲学堂公園管理事務所 1階) (指定管理者提供)



写真 4-146：「遊び心の写真塾」(屋内) (指定管理者提供)



写真 4-147：「遊び心の写真塾」(屋外) (指定管理者提供)

②. 運動施設を活用した取組

スポーツや健康増進活動を通して、幼児から高齢者まで幅広い年齢層が参加できる運動プログラムを提供している。野球場では、東洋大学硬式野球部指導による中野区内在住・在学の小学校5・6年生を対象に野球教室を実施している。

また、野球場ではヨガ教室やノルディックウォーキング教室、弓道場ではスポーツ吹矢体験教室を毎月第4土曜日に開催するなど、本来の専用スポーツ以外の活用も図っている。



写真 4-148 : ヨガ教室
(指定管理者提供)



写真 4-149 : ノルディックウォーキング教室
(指定管理者提供)



写真 4-150 : スポーツ吹矢体験教室
(指定管理者提供)

③. 公園内の自然を活用した取組

植栽されたウメなどの樹木を利用して「ウメの実収穫体験」、「剪定教室」や、時空岡で「星空観察会」を開催し、公園や身近な自然に親しみを感じることができる機会を提供している。

また、植栽管理作業で発生した植物性廃材を使用した「廃材クラフト」や、例年12月には集会場（霊明閣）において「クリスマスリースづくり」（令和3年度は3密の回避を考慮して体験教室ではなく、「リースづくり工作キット」としての販売事業に変更）を実施している。



写真 4-151 : 「星空観察会」
(指定管理者提供)



写真 4-152 : 「剪定教室」
(指定管理者提供)



写真 4-153 : 「クリスマスリースキット販売」
(指定管理者提供)

2) パーククラブ（地域活動団体）活動状況

哲学堂公園では、区民が自主的な活動として参加する「哲学堂パーククラブ」の活動を行っている。哲学堂パーククラブでは、クラブメンバーが年間を通して積極的に哲学堂公園で活動している。

①. 公園ガイド

春の古建築物公開（4/29～5/5）、秋の古建築物公開（10月の土・日・祝日、11月3日）、古建築物の月例公開時（毎月第1日曜日）に、公園ガイドメンバーによる定点ガイド活動を実施している。

哲学堂公園のガイド活動に関心のあるクラブメンバーを対象に、公園ガイド育成のため、古建築物公開日を中心に月1回以上、年間12回を目標に開催している。

学習会の内容は、古建築物公開時のガイド実践演習とし、毎回テーマを設け、教材を使用しながら円了の哲学や思想、古建築物に関する知識を学ぶ学習会を行い、より満足度の高いガイド活動が行えるようメンバー同士による活発な意見交換を行い、担い手の育成にも取り組んでいる。



写真 4-154：公園ガイド学習会
（指定管理者提供）

②. 花壇育成活動

哲学堂公園各所の花壇育成や、花壇・植栽管理活動のほか、野草の育成の活動を毎月第1・3土曜日に実施している。

なお、令和3年度（2021）では新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、例年開催している地域の高齢者施設や幼稚園と「ふれあい区民花壇」の運営を中止し、花苗定植はパーククラブメンバーと公園スタッフとの協働で実施した。



写真 4-155：花壇育成活動
（指定管理者提供）

3) 地域団体等との連携事業

地域団体と連携しながら哲学堂桜まつりや、近隣地域の高齢者施設や幼稚園との協働による園芸活動「ふれあい区民花壇」を実施している。

また、中野区立江古田図書館での哲学堂公園の展示の他、「文化財クイズラリー」、「東京文化財ウィーク」、「哲学堂公園フォトコンテスト」では、地域の団体、企業、東京都、大学と連携し、文化財を活用した催しを行っている。

毎年、東日本大震災や熊本地震の被災地支援を目的とした「震災復興チャリティーイベント」を継続して開催している。

①. 江古田図書館での展示

中野区立江古田図書館の展示コーナーにおいて、哲学堂公園年表、硯塚や記念碑の説明文、江古田図書館所蔵の哲学堂関連の書籍を期間限定で展示した。



写真 4-156 : 中野区立江古田図書館での展示
(指定管理者提供)

②. 文化財クイズラリー

中野区立歴史民俗資料館との連携事業として、両施設に関連したクイズに答えるラリーの参加用紙を配布している。全問正答された方には哲理門の幽霊と天狗をモチーフとしたキャラクターシールのプレゼントをしている。

③. 東京都文化財ウィーク

毎年、東京都が主催となり都内の文化財の公開や文化財に関わる様々な企画事業を実施し、都民の方々が文化財に触れる機会を提供する「東京都文化財ウィーク」に参加している。

④. 哲学堂公園フォトコンテスト

哲学堂公園に来園し、親しんでいただく機会となるとともに、広く周知を図る事業の一つとして、指定管理者主催による哲学堂公園フォトコンテストを開催している。

公園内で撮影された作品を一般公募し、入賞作品は協賛企業のフォトギャラリー、中野サンプラザ、哲学堂公園管理事務所で展示会を開催し、入賞者を対象とした表彰式を公開実施している。



写真 4-157 : 入賞作品の展示会 (指定管理者提供)

⑤. 震災復興支援チャリティーウィーク

被災地の当時と復興が進む今を伝えるパネル展、地域の有志団体による音楽イベント、募金活動を実施している。

パネル展では、一般社団法人南三陸町観光協会、音楽催事では、様々な団体に協力参加していただいている。



写真 4-158 : パネル展「被災地の現在を伝える写真展」(指定管理者提供)

4) 情報発信

哲学堂公園を利用する方々、関心を持っていただいている方々に対して、必要な情報を積極的に発信するべく、情報コンテンツの充実と多言語対応、タイムリーな情報更新に取り組んでいる。

①. 七十七場の解説

哲学堂公園内に7箇所の掲示板を設置して、適時、情報案内を行ったほか、七十七場を紹介する移動可能な解説板を設置している。

七十七場の案内は全てに設置されてないことから、解説が不十分であるとの利用者からの意見もある。

②. Webサイトにおける情報提供

インターネットを活用し、オフィシャルサイトを中心にTwitterやFacebookなどのSNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）により情報を発信している。哲学堂公園のホームページにおいて、東洋大学の学生と協力して制作した「七十七場紹介ビデオ」のほか、「哲学堂公園検定100問」、「哲学堂公園いきもの図鑑」といったコンテンツを配信している。

また、イベント開催案内・中止や延期の情報、工事による施設利用への制限、さらには、新型コロナウイルスの感染拡大に伴う施設の利用条件の変更などがある場合は、オフィシャルサイトにて情報を発信している。

オフィシャルサイトは日本語版と英語版の二ヶ国語対応とし、各種利用案内のほか、哲学堂公園への理解を深めより楽しんでいただくためのサービスとして、「哲学堂七十七場紹介VTR作品（日本語版・英語版）」も対応している。

③. 様々な情報媒体における情報発信

地域へのきめ細かな情報提供の方法として、地域連携による近隣町会の掲示板の使用や、近隣町会が発行する地域ニュース、中野区ウェブサイト「なかの学び場ステーション」での情報発信を行っている。

また、中野区が刊行する情報紙「ないせす」や「観光ガイドブック」、指定管理者が独自に制作・配布するフリーペーパーを活用し、哲学堂公園の紹介を行っている。

5) 利用者サービスの拡大

来園者、利用者の意見を参考に利用者サービスとして、利用時間を制限している区域の開園時間の延長を行っている。

条例で設定された時間に加え、指定管理者の指定事業として公園の開園時間を以下のように拡大している。

(条例で設定している開園時間)

期 間	開園時間	閉門時間
4月1日～9月30日	午前8時	午後6時
10月1日～3月31日	午前9時	午後5時

(指定管理者が運営している開園時間) 部分が開園時間拡大している期間

期 間	開園時間	閉門時間
4月1日～6月30日	午前8時	午後6時
7月1日～8月31日	午前7時	午後6時
9月1日～9月30日	午前8時	午後6時
10月1日～11月30日	午前8時	午後5時
12月1日～2月末日	午前9時	午後5時
3月1日～3月31日	午前8時	午後6時

6) 販売サービス

哲学堂公園の土産物として、年間を通して、指定管理者制作による哲学堂公園オリジナルポストカード、哲学堂揚げ煎餅、公園ガイドマップなどを販売している。

また、哲学堂公園と周辺地域を紹介する雑誌「東京人」の増刊号（2016.1.18発行）について、哲学堂公園管理事務所及び公園売店にて販売を行っていた（令和3年度末までに在庫が完売）。

なお、哲学堂揚げ煎餅は、哲学堂公園売店及び中野区役所1Fの福祉売店において販売するとともに、中野区ふるさと納税の返礼品として、「哲学堂揚げ煎餅」を登録し、全国への哲学堂公園の認知の拡大を図っている。



写真 4-159 : オリジナルポストカード写真
(指定管理者提供)

7) 取材への対応

哲学堂公園では、新聞、テレビなどの様々な撮影や取材に対応している。取材の申し込みあたっては、事前に事業内容、撮影方法、取材方法、実施時間、関わる人数などを確認し、一般来園者の利用に大きな影響が無いことを確認した上で許可している。なお、取材については、哲学堂公園の利用促進に寄与できると判断したものについては、積極的に受け入れている。

(3) 整備に関する現状

哲学堂公園では、再生整備計画で野球場の整備を実施したが、園路広場をはじめとした各施設の整備は、実施されないままである。平成25年度(2013)、平成27年度(2015)に公園長寿命化計画を策定し、令和4年度(2022)現在、計画を更新中であることから、園路広場や施設の状況については、この公園長寿命化計画と整合を図りながら、状況を把握する。

哲学堂公園の現状を「園路・広場」、「施設」、「設備類」に分けて以下に整理する。

1) 園路・広場(バリアフリー)

園路や広場では舗装劣化が顕著である。また、舗装の劣化に伴い、埋設表示物やマンホールが浮き上がっている部分が多く、歩行のつまずきやひっかかりなどの原因となっている。景観上望ましくないが、時空岡ではムシロを敷いて歩行状況の改善を図っている。

正面口のエントランス園路では、イチョウの根により平板舗装に不陸が発生している。また、梅林の木橋の老朽化も見られる。

さくら広場とつつじ園にある傾斜路は、台地と低地をつなぐバリアフリー通路としているが、車いすがスムーズに通行できないほど舗装が劣化し、バリアフリーの機能を満たしていない。傾斜路は整備当時の基準を考慮されたものだが、現在のバリアフリー法では、縦断勾配や平坦部の確保などにおいて基準を満たしていない。

四村橋口と下田橋口において大きな段差がある。車いすやベビーカーなどの通行に支障が生じている。



写真 4-160 : 舗装表面の状態
(2022. 07. 30 撮影)



写真 4-161 : 時空岡の舗装面の保護の状態 (提供写真)



写真 4-162 : 下田橋口の段差解消
処理の状態 (2022. 07. 30 撮影)

2) 施設

①. 児童遊園内の施設

児童遊園では、早朝のラジオ体操から近所の幼稚園・保育園の園児、児童などの地域の方々にとって貴重な運動、遊び場となっている。

しかし、藤棚が老朽化により使用・立入禁止のままである。



写真 4-163 : 児童遊園内の遊具
(2022. 07. 30 撮影)



写真 4-164 : 児童遊園内の藤棚
(2022. 07. 30 撮影)

②. トイレ

園内各所のトイレは、和式便器が多く、一部の利用者には使用し難くなっている。特に管理事務所棟、児童遊園のトイレは、設備が古く故障のおそれがある。

また、車いすが利用可能な便房では、オストメイト対応設備やベビーチェアがなく、多様な利用者が円滑に使用できるようにはなっていない。



写真 4-165 : つつじ園のトイレ
(2022. 06. 27 撮影)

③. 柵・手すり

階段などでは、擬木柵、ロープ柵、竹柵など様々な柵や手すりが設置され、全体的に意匠の統一性がない。柵がない場所では、高齢者の利用を考慮して、応急的に竹や木材で簡易な手すりを設置しているが、樹木の下では湿気も多く腐朽しやすい。

妙正寺川護岸上の人止め柵や崖線部の園路柵は、擬木製で破損箇所も見られる。また、転落防止柵の基準（高さ 1.1m）を満たしていない箇所では、手前側に高さ 1.2mの竹垣を設け、暫定的な対応をしている。哲学堂公園から河川への進入防止に設けられている柵は河川護岸上に設置され、河川の護岸と柵の区切りが難しい状況にある。

フェンス類は自然に馴染む色彩（ダークブラウン）で整備されているが、一部の園内のフェンスの色は、景観上目立つペパーミントグリーンのみである。

また、児童遊園とつつじ園との間にフェンスがある。



写真 4-166 : 柵
(2022. 07. 30 撮影)



写真 4-167 : 妙正寺川沿いの擬木柵
(2022. 07. 30 撮影)



写真 4-168 : 児童遊園のネットフェンス (2022. 07. 30 撮影)

④. 駐車場・駐輪場

車いす利用者等に対応した駐車施設になっていない。また、哲学堂公園内には、12 台程度の駐車施設しかなく、土・日・祝日は哲学堂通りの渋滞の原因となることなどから、駐車禁止としている。

哲学堂公園内には、野球場やテニスコート周辺に駐輪スペースが設けられており、自転車やオートバイなどが多く停められている。



写真 4-169 : 駐車場 (2022. 11. 14 撮影)



写真 4-170 : 駐輪場 (2022. 11. 14 撮影)

⑤. 案内施設

各公園の出入口には、公園の利用ルールや開閉園時間などに関する案内表示が、仮設対応で煩雑に設置されている。



写真 4-171 : 案内施設 (2022. 07. 30 撮影)

⑥. 管理棟

管理棟は、昭和54年(1979)に建てられ、昭和56年(1981)の以前の旧耐震基準による建物であり、現在の耐震基準に適合していません。大地震などがあつた場合、倒壊の危険性が高い。

劣化状況は、外壁に暴露が見られ、塗装の傷みも激しい。建具の腐食があり、屋根やバルコニーなどに劣化が生じており、建て替えもしくは改修の検討が必要な状況である。

なお、管理棟は、平成30年(2018)に学習展示施設を兼ねて、現在の駐車場、売店、児童遊園を覆う規模で建て替えの計画があつたが見直されることになった。



写真 4-172 : 管理棟 (2022. 06. 27 撮影)

3) 設備類

園内の設備類は、全般的に老朽化が著しく、園内利用に支障をきたす破損、故障が度々発生している。

①. 排水設備

台地上(時空岡、児童遊園)の雨水処理が不十分なため、妙正寺川側への各階段が滝のように雨水が流れる。その結果、唯心庭では、台地上からの流水により心字池が溢れ、園路と池の境界が見えなくなる。

テニスコート裏の擁壁部では、大雨時に集水桝から溢れた水が中野通りの歩道にあふれ落ちることがある。

公園内の排水系統については、雨水・汚水の合流式になっている部分や浸透桝が多く、暗渠管の大部分は土砂の流入や樹木の根の侵入により閉塞している。U字溝や集水桝では、定期清掃を実施しているが、水が抜けない箇所が多くある。

また、集水桝蓋の開口部(穴)が大きく、歩行者に支障をきたしている。



写真 4-173 : 降雨時の唯心庭の様子 (2019. 11. 5 撮影)

②. 給水設備

公園内の上水系統については、仕切り弁がほとんどなく、漏水が発生しても場所を特定しにくく、復旧工事を行う際には、本管を止めなくてはならない状況である。

③. 消火設備

古建築物の周辺には消火設備が設置されているが、給水管が劣化している可能性があり、過去に消防訓練で放水した際に、管が水圧に耐えられなくなり漏水が発生する事態が生じた。消火栓の給水管は系統ごとに止水栓が設置されていなく、止水弁を止めたところ全消火栓から水が出なくなることが発生した。

④. 電気設備

公園内の照明灯には水銀ランプが使用されているが、今後は水銀ランプの使用ができなくなるため、LEDランプに交換する必要がある。

また、園内のスピーカーが古く、音が聞こえにくいなどの問題がある。特に、六賢台の裏手は、音の死角が生じている。

(4) 運営・体制の整備に関する現状

1) 運営・体制

現在、哲学堂公園は、中野区都市基盤部公園課が管理しており、文化財の現状変更等の保存管理に関することを中野区区民部区民文化国際課が管理している。

また、哲学堂公園内には、テニスコート、野球場、弓道場があり、これらの運動施設の利用促進などに関することは中野区健康福祉部スポーツ振興課と連携しながら運営・管理を行っている。

さらに、名勝の保存活用にあたっては、文化庁及び東京都教育庁地域教育支援部管理課と協議を行い、指導や助言を受けながら適切に管理を行うこととしている。

哲学堂公園の維持管理は、妙正寺川公園運動広場、上高田運動施設を含め指定管理者制度によって行われている。指定管理者は、七十七場の日常的な管理として、園内の清掃や施設管理、植栽管理、設備修繕・改善、運動施設の受付や、イベントの開催などを中野区に代わり運営・管理している。

イベント開催や緑化活動では、地域の方々と協働して行っている。公園ガイド活動では公園ガイドメンバーと、緑化活動では「哲学堂パーククラブ」と連携して活動している。また、東洋大学とは、「哲学堂七十七場紹介ビデオ」を連携して制作している。

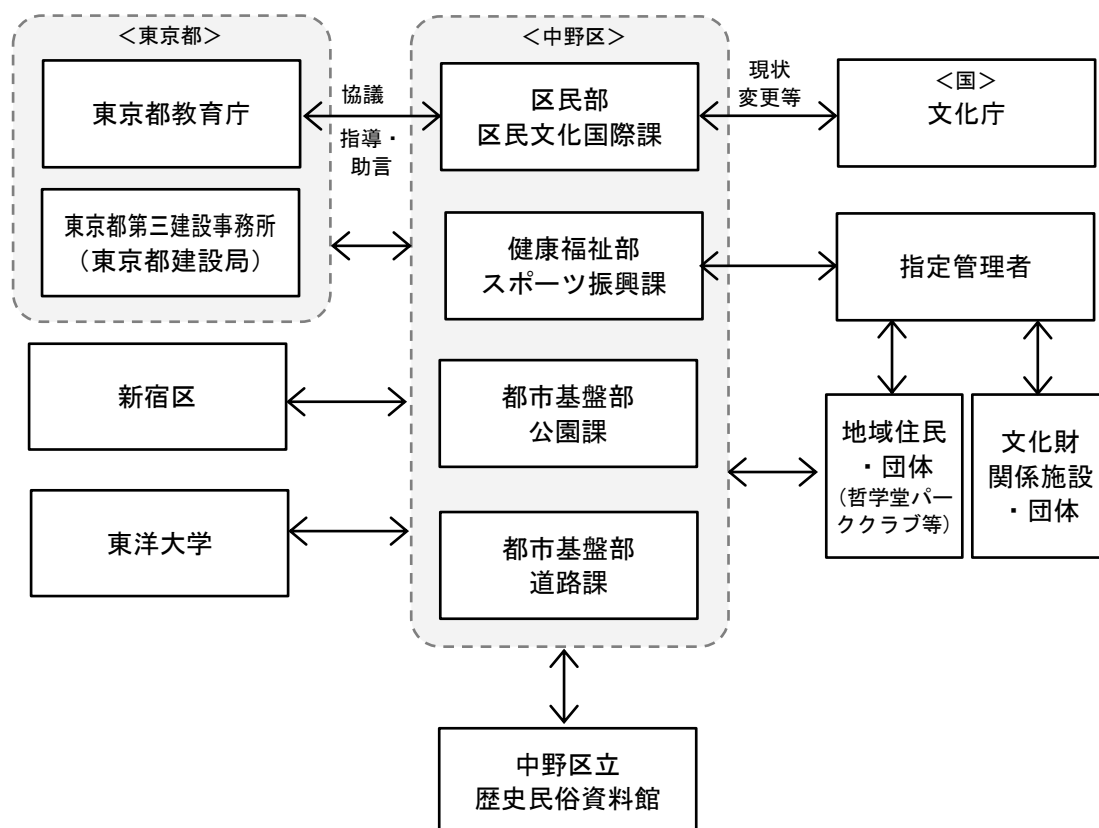


図4-3: 運営・体制の現状イメージ図

2) 土地所有

哲学堂公園の敷地内には、新宿区有地、都有地、国有地などが存在する。これらの土地を名勝に指定すること、中野区を管理団体とすることについては、名勝指定時に各機関からそれぞれ同意を得ている。これに基づき、土地の所有は各機関になるが、中野区で包括的に管理を行っている。

3) 外部との連携

①. 河川管理者

哲学堂公園は妙正寺川に接することから、河川の整備、維持管理には、河川管理を管轄する中野区都市基盤部道路課、新宿区みどり土木部道路課、東京都第三建設事務所で調整を図りながら、各々の連絡体制を強化する必要がある。

なお、護岸から4mは河川管理用通路であるため、河川区域の一部は名勝指定範囲と重複していることになる。この重複箇所では整備工事を行う場合は河川管理者と、河川改修・維持工事を行う場合は中野区、東京都教育庁、文化庁との調整・協議が想定される。

②. 公益財団法人ワグナー・ナンドール記念財団

哲学の庭を設置した当時は、中野区長と和久奈ちよ氏との間で交わされた覚書によって、哲学の庭の著作権は和久奈ちよ氏となっている。令和3年(2021)10月に和久奈ちよ氏が逝去されたが、覚書の取扱いについては現状のままとしている。

③. 東洋大学

東洋大学により、毎年、円了の遺言による行事の「哲学堂祭」が開催されている。「哲学堂祭」では、四聖堂での祭事、宇宙館での記念講演などが行われ、東洋大学法学部の学生や浦水会(学生の保護者の会)による公園見学会が行われている。その他、円了や七十七場に関することでは情報交換や事業の連携などを行っている。

4-2 課題

哲学堂公園の課題を「保存」、「活用」、「整備」、「体制・運営の整備」に分けて、以下に整理する。

(1) 保存に関する課題

哲学堂公園の保存に関する課題について、「七十七場」、「広場等」、「植生」、「景観」に分けて、以下に整理する。

1) 七十七場

七十七場に関する課題を以下に整理する。

①. 建造物や石造物

周辺環境や自然災害などにより、その姿や利用、環境との関わりが変化し、七十七場のいくつかは、消失し、原形から一部の形状が変わったものがある。

近年では、平成3～4年度(1991～1992)、平成28～30年度(2017～2019)に大規模な建築物の修復工事が実施されたが、一部の建築物は修復工事が実施されず劣化が生じたままである。特に長い間修復工事が実施されていない六賢台では、シロアリの被害や、屋根瓦の欠損など早急な対応が必要である。

筆塚、硯塚、三祖碑、記念碑などの石造物では、汚れや劣化などにより表面に刻まれた文字が見えにくくなっており、清掃や、劣化を遅らせる処置を行い、できる限り保存状態を良好に保つ必要がある。

哲理門、宇宙館、常識門の聯や扁額類、三学亭の石板、狸燈や鬼燈の石造物は、風雨にさらされて表面が劣化し修復が必要な状態であるが、保存にあたっては、複製を製作・展示し、現物は安全な場所に保管するなどして、文化財の価値を保護する方法を検討する必要がある。

水色に塗られた観象梁の色彩や、意識駅の腰掛のように景観を損ねているものは、景観に配慮した整備を検討する。

七十七場周辺では、樹木の根や落枝などにより破損することがあるため、緑の景観と調和を図りながらこれらの影響を回避することが望ましい。

②. 園路・階段・石積

園路や広場では地表面の劣化が著しい箇所が見られ、石階段では目地が痩せ、ぐらつきが生じている箇所がある。園路や石階段の上を降雨時に雨水が勢いよく流れ、地表面や階段の目地を削ることから、排水処理も含め全体的に再整備が必要である。

崖線部の石積では、経年劣化や樹木の根の伸長によりクラックが生じている箇所があり、一部では崩落が見られ、安全上早急な対応が必要である。構造物に直接的な破損をきたす樹木の根は、早い段階で除去することが望ましい。

2) 広場等

広場等の課題を以下に整理する。

①. つつじ園・菖蒲池

つつじ園・菖蒲池では、七十七場の景観と調和しつつ、舗装や施設に使用する材質、色彩は景観を損ねないように留意する必要がある。

また、植栽や池などの自然の要素はできるだけ良い状態で維持するように努める必要がある。

②. 梅林

梅林ではウメの花が咲いていない時期でも、梅林の魅力を高める案内や整備が必要である。

「哲学堂パークボランティア」の活用方法においては、植栽する植物を哲学堂公園の雰囲気にあわせたり、外来植物を持ち込んだりしないよう適切にマネジメントして行くことも必要である。

③. 哲学の庭

哲学の庭の外周部の樹木については、木陰を作り芝の生育に影響を与えているため、隣接する施設の遮蔽機能を考慮しつつ、適切な樹高と樹形で維持管理して行くことが必要である。

④. さくらの広場

さくらの広場では、七十七場と景観を調和しつつ、舗装や施設に使用する材質、色彩について景観を損ねないように留意する必要がある。

老齢化によるサクラの生育状況が悪いため、更新を検討する必要がある。

また、護岸沿いにあるサクラは、当面はひこばえによる更新措置が考えられるが、将来的に護岸工事が必要となった場合にあってはサクラを更新することが考えられる。

⑤. 児童遊園

遊具の安全のための設置基準と現地の遊具の設置状況を照らし合わせ、遊具の安全性を確保する必要がある。

また、過去に児童遊園のヒマラヤスギが強風により倒れ、ゴミ集積所の屋根や外周フェンスを押しつぶす事故が発生している。枯損木や衰弱した樹木は、強風などにより突然に倒木や落枝などが発生し、来園者に危険を及ぼす影響があるため、安全に配慮した樹木の管理を行う必要がある。

⑥. エントランス

哲学堂公園のエントランスを演出するイチョウ並木であるが、片側のイチョウは哲学堂公園及び名勝指定範囲外であることから、保全するためには現在植栽されているイチョウを

保全する必要がある。

⑦. 運動広場（テニスコート・野球場）

施設が老朽化したテニスコートは、用途や地割を改変しないように改修を実施する必要がある。

また、サクラなど衰弱した樹木については、樹勢回復のための措置を行う必要がある。

3) 植生

①. 既存樹林の植生

斜面地では、常緑広葉樹林へと遷移が進み、林内への日照条件が少なく林床植生が貧弱になることから、林内の日照をできるだけ確保しながら植生を保全する。

なお、植生の急激な変化は残存している自然の環境にも影響を与えるため、植生管理については、長期的な計画の検討が必要である。植生の管理は、生態系被害防止外来種のほか、実生で繁茂してしまうような植物の扱いも含めて検討する。

また、時空岡周辺や万有林では、大気汚染や松枯れ病により多くのアカマツが枯れてしまったため、現存するアカマツを保全する。

②. 建築物周り

建築物周辺や屋根の上部まで大きく枝葉を広げた樹木については、枝葉により建築物を隠すなどの影響を与えているため、建築物のバランスに配慮した樹木の管理が必要である。

また、宇宙館や六賢台の周りでは、強風による落枝や倒木による直接的な破損を与えるおそれがあるため、破損をきたす樹木の枝葉を整理することを検討する。

三学亭周辺では樹木が大きく成長し、長い期間に渡って剪定などが行われていなかったため、適切な樹木の管理が必要である。

また、大径木の根は、周辺の建築物や地下埋設物に影響を及ぼす可能性があるため、特に建築物の周辺では地下で根が大きく張らないように、地上部の枝葉を広げ過ぎないような樹木の管理が必要である。

4) 景観

斜面地では、高木から低木まで常緑広葉樹などで覆われてしまっているため、所々に配置された七十七場を視認することが難しくなっている。また、時空岡周辺は常緑広葉樹などに囲まれ、六賢台や観察境からの眺望などは、成長した樹木にふさがれたままである。

視線の障害となる樹木の枝葉を整理することで、部分的にでも視線や眺望を確保し、景観に配慮した樹木の管理を行うことを検討する。

また、園外に見える人工物は、園内から景観を考慮した遮蔽する植栽を検討する。

(2) 活用に関する課題

哲学堂公園の活用に関する課題について、以下に整理する。

1) 七十七場の展示と解説

七十七場には、それぞれの順路やまとまりに意味を持っているが、一部の建築物では常時に公開していないものがあり、七十七場を順序通りに体験できるようになっていない。その上、誰もがわかりやすい七十七場の順路や構成を示したものはなく、現地での七十七場の全てに解説板が設置されていないことから七十七場の案内や解説が不十分である。

さらに、七十七場の中には消失したものや、形が変わってしまったものもあり、当時の姿を知ることができないことから、こうした七十七場の一部の展示の方法を検討する必要がある。

また、七十七場には哲学関、真理界から入り、七十七場を順番に回ることによって哲学が理解できるとされるが、七十七場が配置された場所は、妙正寺川沿いの低地方面からのアプローチもある。来園者は必ずしも円了が定めた順路で見学するわけではないことから、自由なアプローチに対応した案内表示が必要である。

2) 情報の伝達方法

文化財の展示では、外国からの来園者も含め、情報収集の手段としてスマートフォンが多用されている。ユニバーサルデザインの観点からも、ガイダンスやサービス向上のため、公園内で使用できる Free Wi-Fi の整備など最新の情報伝達方法に対応していく必要がある。

また、文化財の展示解説や紹介を行う場所や機能がなく、解説や案内などのサポートの整備が不足している。

3) 生涯学習の場としての活用

哲学の概念を示した哲学堂七十七場を一般の来園者が案内なしでは理解することは困難である。哲学堂七十七場の魅力を少しでも多くの方々にわかりやすく説明するものとして、有志によりガイド案内が実施されているが、こうした生涯学習の取組に対して、活動拠点となる場の提供などの支援が不十分である。

4) 文化財とのふれあい

哲学堂公園では、野球場、テニスコートなどの運動場や、児童遊園などの様々な利用に対応し、必ずしも七十七場で哲学にふれる目的で来園する利用者ばかりではない。

哲学堂公園は、明治後期から昭和の時代まで拡張されてきた経緯や歴史的な背景を踏まえ、精神修養、社会教育の場として活用されることが一つの目的ではあるが、利用者の大多数において文化的価値のある公園として認知されていることが少ない。できる限り哲学堂公園の魅力として多くの方々が気軽に文化財とふれあえるような利用の促進を図り、親しみやすい歴史的・文化的価値の活用方法を検討する必要がある。

(3) 整備に関する課題

整備に関する課題を「園路・広場」、「施設」、「設備類」、「その他」に分けて、以下に整理する。

1) 園路・広場

利用頻度の高い園路や広場での土系舗装は、表面の摩耗や劣化が著しく、部分的な補修で対応できなくなっている。今後改修する舗装材は、景観性、耐久性、施工性など様々な観点を踏まえ総合的に検討する必要がある。

また、文化財との兼ね合いを見ながらバリアフリー化を検討する必要がある。

さらに、園路や広場では、雨水の滞水、埋設表示物やマンホールの浮き上がり、樹木の根の伸長による不陸などが顕著であるため、舗装更新とあわせてこれらの整備を同時に行う必要がある。

2) 施設

①. 児童遊園内の施設

児童遊園内では、老朽化した休養施設や遊戯施設などは、安全性の観点から改修が必要になる。遊具は、現在の安全基準に適合していない箇所を改修又は更新する必要がある。

②. トイレ

便器の洋式化、快適に使用するための基準への適合など、利用者のニーズに適切に対応していない器具や設備などは改修又は更新する必要がある。

哲学堂公園内には、複数のトイレがあり、一度に多くの改修又は更新を行うことは困難であるため、利用頻度が高いトイレから優先順位を設けて改修を行うことが望ましい。一方で、利用頻度が少ないトイレは、維持管理も考慮し、更新する際には規模の縮小や、外観の意匠の変更もあわせて検討する必要がある。

③. 柵・手すり

階段などに設置する木製の手すりは、景観性や安全性に配慮し、材質、形状などのデザインを検討する必要がある。特に、妙正寺川護岸上や崖線部の転落の危険性がある場所では、景観との調和を図りつつ、安全性、施工性を考慮した対応が必要である。

また、擬木柵に破損箇所が見られるため、子どもの転落に対する安全性など場所の特性に応じた柵を検討する。

二重に柵が設置されている場所、様々な形状の柵が設置されている場所、フェンスの色彩に違和感がある場所などでは、景観性や意匠に配慮した柵を検討する必要がある。

④. 駐車場・駐輪場

利用者へのサービスが十分でない駐車場、駐輪場については、利用実態を踏まえ適切な駐車場・駐輪場の配置、規模を設定し景観性、利便性、安全性に配慮しながら適切な整備、運用を図っていく必要がある。

自転車やオートバイについては、乱雑に止められる状況もみられることから、景観性にも配慮する必要がある。

⑤. 案内施設

各入口の案内施設は、常設や仮設、配置、形状などが煩雑であるため、再検討する必要がある。

情報が古くなった一部の案内施設は、最新の情報に更新する必要がある。また、外国からの来園者も想定し、複数の外国語表示も必要になる。

七十七場が配置された周辺では、複数の入口から七十七場を見学することを想定した案内表示が必要である。

⑥. 管理棟

管理棟は、部分的に老朽化が激しく、更新が必要な状況である。現状のまま管理棟を使用し続けるのは、今後、安全性、機能性ともに難しくなるため、管理棟の設置条件を見直し、管理棟の現地での建て替えもしくは改修を検討する必要がある。

3) 設備類

園内の給水・排水・電気設備は老朽化により、園内利用に支障をきたす破損や、故障が生じているが、地下埋設物を把握できず、改修が困難な状況である。

哲学堂公園は、明治時代に円了が作り始めてから財団法人哲学堂、東京都、中野区と管理者が変わる中で、設備類の現状が十分に把握できていないため、更新にあたっては、調査を行う必要がある。

一方で、計画的に更新を図る必要があるものの、現在利用上で支障があるものは、その都度対応しなくてはならない。

唯物園、唯心庭の循環設備は、故障が多く、その都度の対応ではランニングコストがかさみ、計画的なメンテナンスが行えないことから、水循環システムの更新を検討する必要がある。循環設備の改修は、更新による費用対効果を検証し、適切な水循環システムの方法などを検討することが望ましい。特に現状の悪化した水質と、ろ過設備の能力が合っていないため、更新の際には水循環システムの条件を見直すことも考えられる。

4) その他施工に関する課題

哲学堂公園内には工事や管理の際に大型車両の進入が困難である。

大きく成長した妙正寺川沿いの崖線部の樹木の維持管理作業が難しくなっており、さくらの広場や唯物園へ大型車両が進入するためには、外周フェンスを取り外すなど車両動線の確保が必要である。

近々ではナラ枯れ病のコナラを除去する必要があるが、崖線部では切った枝や幹を仮置きすることもできないため、立ち枯れた大径木を除伐する場合、時空岡から大型クレーン車を使用する方法が考えられる。その場合、時空岡外周のフェンスを取り外し、相対溪を渡る仮設通路を整備するなどの対応を検討する必要がある。

(4) 運営・体制の整備に関する課題

運営・体制の整備に関する課題について、以下に整理する。

1) 関係部署・機関との連携

哲学堂公園を管理する区民部区民文化国際課、都市基盤部公園課、健康福祉部スポーツ振興課では、お互いに連携を図りながら名勝として適切に維持管理していく必要がある。また、現状変更する場合は、東京都教育庁や文化庁と協議をした上で進める。

哲学堂公園に隣接する妙正寺川については、中野区都市基盤部道路課、新宿区みどり土木部道路課、東京都第三建設事務所により管理されているため、河川管理に関することは各々の連携、協力が必要である。

なお、緊急を要する工事（災害復旧等）においては、名勝指定範囲内への影響も想定されることから、河川管理者の見解も含めた対応策を決めておく必要がある。また、現在の妙正寺川の河道は、1時間当たり50mm規模の降雨による計画高水流量を安全に流下させるための整備を進めている。上記規模で護岸整備が完了しているが、河床を暫定的に下流の流下能力に見合った高さに行っている区間については、今後河床掘削を実施する予定となっている。さらに神田川流域河川整備計画において将来は流域全体で1時間当たり100mm規模の降雨に対応できるよう治水水準の向上を図る旨が記載されており、今後も河川改修が想定されるため、河川管理者とは十分な調整・協議を行う必要がある。

2) 哲学の庭の著作権

哲学の庭で撮影を行う場合には、公益財団法人ワグナー・ナンドール記念財団より撮影許可を得た上で行うことになっている。相続者と今後、著作権の許容範囲及び取扱いについて協議する必要がある。

3) 指定管理者制度

哲学堂公園の運営管理には、七十七場やその周辺の植栽など文化財管理の知識や経験などが重要である。また、これまで開催してきたイベントなど継続性が必要なものもある。様々な自主的な事業は、指定管理者制度であったからこそ実現されたというものもある。今後も、指定管理者制度を活用し、適切な運用を図り、維持管理の水準を確保していく必要がある。